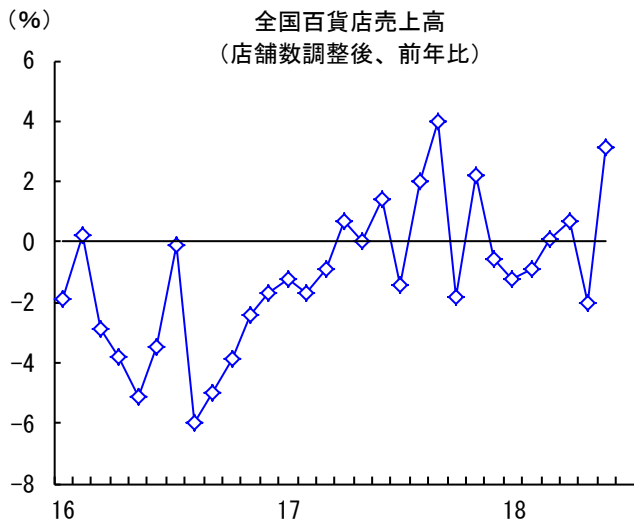


テーマ：百貨店売上高（2018年6月）

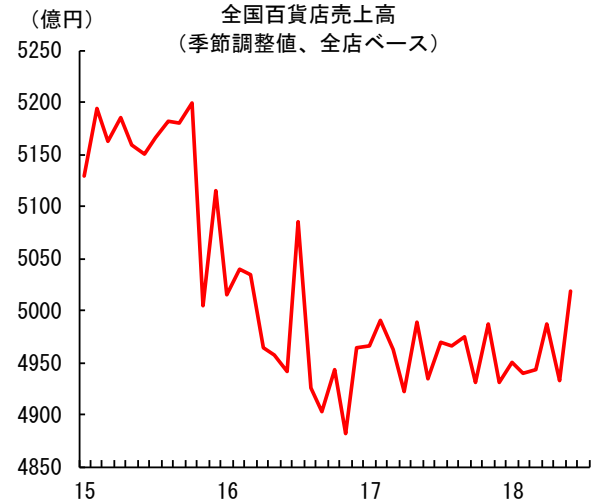
～6月の消費は好調で、4-6月期でも増加に。一方、7月は下振れの可能性も～

発表日：2018年7月24日（火）

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL：03-5221-4528



(出所)日本百貨店協会「全国百貨店売上高」



(出所)日本百貨店協会「全国百貨店売上高」

(注)季節調整は第一生命経済研究所

○気温の上昇と日照時間の増加で6月の消費は持ち直し

日本百貨店協会から発表された18年6月の全国百貨店売上高は前年比+3.1%（店舗数調整後）と増加した。5月は天候不順の影響から前年比▲2.0%と落ち込んでいたが、6月は一転して高い伸びになっている。季節調整値（筆者試算）でも前月比+2.0%と大きく伸びている（5月：前月比▲1.1%）。商品別では、夏物衣料が好調に推移したことから、衣料品が前年比+4.3%と大幅に増加していることが目立つ（増加は7ヶ月ぶり）。

今月の百貨店売上の増加には、セールが6月に一部前倒しされた影響が含まれているが、それを割り引いても好調だったとみられる。実際、セールとは無関係の6月分の他の消費関連統計をみても、チェーンストア販売額が前年比+0.1%（5月：▲2.3%）と4ヶ月ぶりに増加、コンビニエンスストア売上高が前年比+1.1%（5月：▲1.2%）など軒並み改善、季節調整値でも増加となっており、6月の消費が持ち直したことが示されている。6月は全国的に気温が高く夏物衣料の販売が好調だったことに加え、早い梅雨明けに象徴されるように日照時間が多かったことが外出機会の増加をもたらしたと思われる。5月は気温の低下と降水量の増加で消費は落ち込んでいたが、6月は逆に天候要因がプラスに効いたようだ。来週公表される商業動態統計の小売業販売額でも5月の落ち込みから持ち直すことが予想される。

○4-6月期の売上は季節調整値でも増加。7月は下振れの可能性も

なお、百貨店売上高を季節調整でみると、4-6月期は前期比+0.8%と増加に転じた（1-3月期：▲0.9%）。4月の好調の後、5月が落ち込み、6月が持ち直すといった形で、天候要因により振れの大きい展開となったが、4-6月を均してみれば1-3月期から回復したという結果に終わっている。1-3月期の個人

消費については、大雪等の天候不順で外出が手控えられたことに加え、野菜価格の高騰で実質購買力が削がれたこともあって低調に推移していたが、4-6月期にはこうした下押し要因は解消された。あくまで反動の域を出るものではないが、とりあえず4-6月期の消費はいったん持ち直したとみて良さそうだ。

一方、懸念されるのが7月の動向である。記録的な豪雨により消費も相応の悪影響を受けざるを得ないものとみられるほか、猛暑による消費抑制の可能性もあるだろう。一般に、猛暑は消費を刺激されると言われることが多いが、暑過ぎる夏が外出の手控えに繋がる結果、サービス消費を中心として消費を減退させる可能性も意識しておく必要がある。7月の消費は下振れる可能性が高いと予想している。